

新年にあたり

～自主性をもって利用者本位に～

社会福祉法人 奉優会 理事長 香取 真恵子



奉優会の皆さん、あけましておめでとうございます。
昨年は、東日本大震災という大きな災害を受け、一時、日本中を、いや世界中を震撼させました。そのおかげで、「絆」という言葉が生まれ、お互いに助け合う心が自然に発生し、地域の連携との大切さを身にしみて体感いたしました。

私たち介護職がお困りの方を支援するには、まず何を心がけるのがよいのでしょうか。介護サービスの価値は、一人のご利用者の心の中をもおしはかり、たとえ要介護の状態であってもご利用者が「希望」を持ち、日々納得した生活を送ることができているかどうかで決まります。そのため、介護の専門職による技術的な面の介助のみならず、ご利用者の心に寄り添い、その生活全般を支援していく姿勢が求められます。

人の一生とは、継続的なものです。人生は継続性の中で考えていかなければなりません。多くの人の場合は、要介護になったからといって、その生活スタイルを大きく変えるわけではありません。ご利用者のこれまでの人生を十分に理解し、その上で支援すべき課題を考えていく姿勢が大切です。

介護のサービスに従事する方には、仕事をしていく上での知識や技術の習得とともに、「価値観」の向上が求められています。それは、「人間尊重」と「利用者本位」の価値観です。あわせて介護される方によって求められるサービスの内容には違いがあり、介護は創造的な仕事ですので、常に高齢者の尊厳を守っていく姿勢が求められています。そこで働く方の自主性が期待されるのです。

さらに、職場において、研究的学習的思考をもって意見交換を行い、援助者として不足している知識や技術を自覚することが必要とされます。

また、介護サービスに携わる職員が、専門職として育っていくためには、職場での研修が重要なことと共に、それは組織的継続的なものでなければなりません。各職場で職員主体の研修会のような取り組みを持つことや、毎年開催される「事例研究発表会」のように、職員の自主的参加意識を高める行事は非常に良い取り組みです。「自主性」や「意識的なご利用者との関係性の持ち方」が重要なポイントとなってきます。

自らの実践と経験の中で、介護という仕事の本質に含まれる、「人と人との交流の醍醐味」「やりがい」「働きがい」に気づいたとき、その介護従事者は、「専門職」への道をしっかり歩み始めます。

奉優会の皆様におかれましては、以上申し上げたような事を踏まえて、今年一年、健康に留意し自分自身を高め、自主性を持って行動していただきたいと願っております。

平成24年度 内定者懇親会 が開催されました。

先輩職員
を含め
59名参加

平成23年12月16日、24年度内定者懇親会を開催しました。当日は、13名の内定者が参加し、等々力の家、かわいの家、目黒区高齢者センター、白金の森を見学した後、先輩職員と一緒に懇親会を楽しみました。



移動はバスを貸切り、車内で自己紹介。



各事業所を見学。写真は、目黒区高齢者センターとかわいの家。



先輩職員を交えてレストランで懇親会。「奉優会クイズ」も盛り上がりました。

渋谷・港エリアで合同作品展 が開催されました。

白金デイ
ひがしデイ
笹幡デイ
合同開催

平成23年12月5日～17日の間、高齢者在宅サービスセンター白金の森にて、白金デイ、ひがしデイ、笹幡デイのご利用者の合同作品展が開催されました。



作品展には、書道、押し花、絵手紙、編み物、塗り絵など120作品以上が展示されました。期間中、ご利用者のご家族もご来場頂き、作品を鑑賞されました。

各施設のお正月の様子

ご家族と
一緒に
新年会

新年を迎え、各施設ではご入居者の皆様といっしょに新年会を開催するなど、お正月を楽しみました。特養では、飲込みが難しい方には、ムース食で「おせち」や「お餅入りのお汁粉」を召し上がっていただきました。



みんなでカルタ取り
(優っとり小規模多機能介護池尻)



お正月はやっぱりおせち料理！ムース食のおせちも準備しました。(かわいの家)



かわいの家栄養課が研究・試食を重ねて完成させた「餅ムース」



新年会で、餅つきやコマ回し、羽子板などお正月の遊びを楽しみました。(白金の森)



ご家族会と一緒に餅をつきました。(等々力の家)

編集後記

かわいの家では、「餅が好き、喉に詰まって死んでもいいから食べたい、もう食べられないの?」といった去年のご入居者の声に応えてムース食の方向性へ開発したものとこと。今年は笑顔でお餅を召し上がられていたようです。年明けから嬉しいお話ですね。薬山